

日立超し分会の結成大会に37人参加

1月11日(日)午後、電機・情報ユニオン東京支部の呼び掛けで、八王子市内で日立



超し分会結成大会」が開催され11団体・職場から37名の参加者で会場が一杯になりました。

電機・情報ユニオンの米田徳治委員長は経過報告で「現職での分会結成は多数派形成する巨大な一歩の始まり」と意義を強調しました。

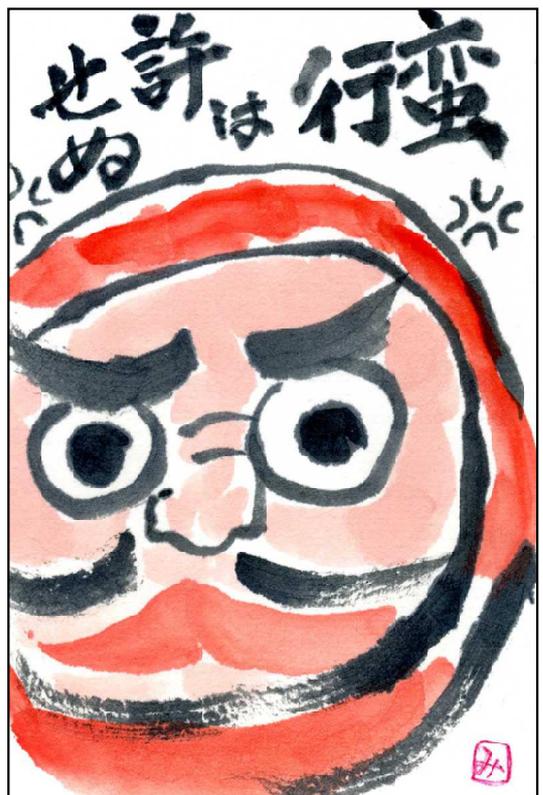
近藤分会長は、分会結成までの経過と分会役員を紹介し、金田分会書記長より分会結成宣言が読み上げて提案され、大きな拍手で確認されました。連帯挨拶は、東京地評の菊池組織局長、立川労連の芳賀

議長、日立懇の馬場事務局長から力強くありました。その後、当事者からの決意表明を行ない、会場からの発言が5人から行われ、闘争カンパの訴えに9万3000円も寄せられる結成大会となりました。休憩後に、特別講演として「追い出し部屋とのたたかいに寄せて」と題して松尾文彦弁護士（八王子合同法律事務所）に行って頂き、本件で問われていることも法的にも勝てる事案であり、大義あるたたかいと強調されました。

まともな職場に改善を

「昨年の一時金で、低位評価」にされ、さらに「あなたの業務はないし、今後も評価は良くなることはない」と早期退職を強要され、多くの人がたちが応じさせられました。評価を低くされた人たちは「どこが悪いのか？どうすれば良いのか？」と尋ねても「何でそんな事を聞くのか、自分で考えろ」と対応したとの訴えが寄せられました。

こうした実態は、まともな職場とは言えない状況であり、改善が必要です。



絵手紙でご挨拶

休憩室

◆「イスラム国」非道そのものの蛮行だ。世界が脅威を排除しよう

◆「日本の進路」解釈改憲で危険な動き。自衛隊の海外派兵など

◆「北陸新幹線」3月14日開業へ。飛行機との競争が激化

◆「福寿草」この花は暖かさと呼び早春と平和を感じる

編集後記

職場では、営業利益率の2桁達成に向けての経営施策のため、ひたすら人減らしに狂奔している「産業革新機構」の経営者の法令順守や人権破壊などのやり方に怒りすら感じる。その声が届いています。今回の転籍問題で「承継法」であれば、一人ひとりの社員の同意を必要としない」とのやり方を強行しています。職場からの反撃を受ける事を知るべきです。経営者は反省して退陣すべきだと訴えます。

（上）

穴が埋まらない

早期退職のたびに、たくさんの仲間が職場を去り、その後には当然のように仕事の穴がぽっかりと開いてしまいます。

残ったメンバーで埋めようと努力するのですが、まあまあ何とか穴が埋まるには、①同様の仕事をしてきた人が掛け持ちをすること、②関連部門の関係者が残っていること、の2つの条件が必要なようです。

ところが、職場によっては、2/3または3/4か、それ以上が退職してしまい、あまりに大量に人員が減ったために、「分かる人が誰もいない」仕事が多量にできてしまいました。

こうなると、もう穴は修復不能です。これ以上人を減らすことよりも、むしろ辞めさせた人呼び戻すことを考えた方が良いのではないかとさえ思えてきます。

（投稿）